

平姓の人、服部氏を相續したるにや、覺束なし、是のみならず、近世系圖作りといふもの有て、家の系圖に猥りに偽作して、其祖を誤る人多し、是淺羽氏にはじまる、松下重長、相つひで諸家の系圖を偽作す、又た、ら玄信といふ盲人あり、諸家の系圖を記憶して、望にまかせ妄作し侍る、

略○中

關八衛門といふ人、二山義長門人にて、よく玄信が事を知りて語りけり、玄信、或は佐々木鑑真共いふ、幾度も姓名を變じたる者といへり、

〔先哲叢談〕三 二山義長、字伯養、

有瞽者、佐々木玄信者、善記諸家系譜、而至其不可得詳、則牽合附會以欺世、一日過伯養、談及譜、伯養問曰、荆妻垂水氏也、傳言昔者垂水某者、仕伊勢國司、既失其名、且未知爲何世人、則其跡絕不可考、豈不遺憾哉、玄信曰、此垂水廣信也、廣信、稱河內守、伊勢垂水人、初仕其國司、後事後醍醐天皇、諫疏不聽而去、廣信好學、始奉伊洛說、所著有嘉文亂記六十五卷、嘗勸藤藤房讀朱子集註、事載長濟草、今爲子誦讀焉、乃誦者歷々可聽、伯養驚且喜曰、吾子記憶、誠出天性、非由此余何以得知之、請再誦、余將錄之、玄信又復誦、伯養隨而筆之、以爲得明證、當此時、京師藤井懶齋撰國朝諍錄、伯養以與懶齋爲久要故、致之懶齋、以載諍錄、迨後永井貞宗本朝通紀、寺島良安倭漢三才圖繪、載垂水廣信、此邦始讀朱註事、蓋皆本諍錄也、而所謂垂水廣信、古今無其人、嘉文亂記、及長濟草、亦未聞有其書、是本出玄信一時妄語、而伯養信之、海內遂唱犬吠之說、此日夏高繁高繁、恐兵家茶話所辨也、

〔貞丈雜記十六〕一江源武鑑又大系圖、又和論語、鎌倉實記、義經勳功記等の類、皆偽書也、故實の考に用べからず、

〔重編應仁記十〕此比洛陽客語曰、傳聞佐々木高賴一男、近江守近綱、一名氏綱云、永正十五年七月九日卒去、其弟彈正少弼定賴、家督繼、其子大膳大夫義賢、入道承禎、至云、氏綱無子孫事、古記既明白也、